

# 2021年度光赤天連シンポジウム

**テーマ**：国際大型計画との関わり方を考える

**日時**：9月6日(月)－9日(木)

**場所**：国立天文台 すばる棟大セミナー室 and/or online

**背景**：近年、天文宇宙物理観測計画は世界的に大型化が顕著で、国際計画が多くなっている。特に欧米に比べて科学予算の少ない我が国が大型計画を実現するには国際パートナーが必須で、日本主導、対等参加、あるいは海外主導計画への部分参加が有効である。一方で、国際計画ではTMTやSPICAに見られるように海外パートナーの状況に依存するリスクも抱え、その様な影響を受けない単独計画も見直されている。この様な状況で、2030年代将来計画検討WGは、様々な将来計画の立案と発展を推進している。国際大型計画のこれまでの経験を、現在と将来の計画に生かすにはどうすればよいか？国際大型計画とより規模の小さい単独計画のメリットとリスク、バランスなどを議論する。US Decadal Survey 2020で間もなく選定される(超)大型計画にどの様に参加するかは、JAXA/ISASでのミッションカテゴリー再定義と絡み、戦略的な検討を要する。また、TMTの遅れにより生じる空白期間のサイエンス実現のため、ELT等への部分参加も検討する。

**プログラム**：

1. ALMA, SPICAなど国際大型計画での経験。
2. 現在推進中の計画に生かされているか？
3. 2030年代将来計画ワーキンググループの報告。
4. マスタープラン2023。
5. 今後どうするか議論。